

あなたは、どのように応えますか？

How Will You Respond?

Beverly Goldsmith/ビバリー・ゴールドスミス

地元の、国の、また世界の報道に、どのように応えていますか。その答えは千差万別でしょうが、それが、いかに好ましくとも、いやであっても、報道を無視することはできないと、言われています。また、なぜ無視したいと思うのでしょうか？ 報道は、人々にとって重要な情報を広めるための道具です。ジャーナリスト、ライター、解説者、そして報道手段なしでは、世界の市民たちは、自らの健康と幸福に影響する問題について、知らされないことになってしまいます。

とはいえ、それが、活字版、テレビ、ラジオ、あるいはウェブであれ、信頼できる、正直な、バランスの取れた報道、つまり、注意深く分析され調査された報道を、入手するためには、かなりの努力が必要なのです。目を引く見出しでも、深く問題を分析した記事でも、ニュースとして提供するに値すると考えられた報道であれば、私たちがそれに応える必要があるのです。問題は、どう反応するか、ということです。

ニュースに否定思考や、絶望感から反応したり、ニュースを、啓発される手段ではなく、娯楽手段として受け止めことは、誤りです。良質のジャーナ

リズム、真正の情報収集と報道には、敬意を払うべきです。 *The Christian Science Monitor* 紙のように高い評価を受けている新聞に、私が感謝の意を示す一つの方法は、そこで報じられている人々の生活に良い解決策が現れるように、祈ることです。

そこで、私は、ニュースに対して、霊的な視点から応えるようにしています。神がすべての男性、女性、子どもが健康であり幸福であるように、加護していることを確認します。すべてを知る心である神は、彼らが安全で健康であるために必要な考えを、与えています。神は、遍在します。神の解決策は、いつでも、どこにいても、直ぐ手元にあります。そして、これらの解決策が執行されると、その時々必要を満たします。

緊迫した世界の問題に対して、このように形而上学的祈りをもって応えるとき、結果がもたらされます。オーストラリアが悲惨な干ばつに襲われたとき、私は、ある農家が見舞われた事態について、「オーストラリア、祈りはすぐそこに」 (*Christian Science Sentinel*, 2002 年12月30日号参照) という題で、記事を書きました。すると、世界中の読者から、無数の eメール、手紙、電話を頂き、自分もこの干ばつについて一緒に祈ります、と言ってくださいました。このほとばしり出るような愛と祈りが、私の、神の加護への信頼を強め、支え、次の有益な効果が展開されるに至りました：さまざまの考えが出された結果、すべての人が恒久的に水の消費量を減らすことができる仕組みができた；国主導で、水資源の保護と干ばつ防止の政策を、各州で立

案することになった。その後、かなりの雨が降って必要が満たされましたが、この経験から貴重な資源をもっと上手に管理することを学びました。

心のこもった祈りで報道に応えることは、絵そらごとのような、あいまいな活動ではありません。癒しの祈りは、遠くまで届きます。それは、メリー・ベーカー・エディが「大陸と大海を越えて、地の果てまでも届く」と書いた「科学的な考えの『静かな細い声』」です。それは力強い祈りです。「耳には聞こえない真理の声も、人の心には、『獅子がほえる時のよう』である。それは砂漠の中で、また恐怖の闇の中で、聞こえてくる」（『科学と健康』、p.559）。この言葉は、私たちが確認する霊的真理の一つ一つは、それが一人の人間、国家、あるいは、人類全体であっても、その直面する事態について、何かしら達成することに気づかせてくれます。それには、癒しの効果があります。それは、ただ視界から消えてしまったり、何も成就せずに終わってしまったりすることはありません。池に投げられた石が波紋を広げるように、霊的確信をもって宣言された真理の一つ一つが、癒しのさざ波を送出するのです。

The Christian Science Monitor 紙が、偏見のない正確な報道を続けてきたこの百年を記念するにあたって、世界のために考え、世界のために祈る人々は、人類の必要に利他の心で応えるために、この新聞の資源を活用することができます。そうすることより、彼らは、この新聞の創刊者であるメリー・ベーカー・エディが求めた、次の要請に応えることとなります：「当教

会の会員一人一人が、日々祈りを捧げる義務がある：『**あなたの国が来ますように**』；神性の**真理・生命・愛**の統治が、わたしの中に確立され、わたしからすべての罪を除き去るように；そして**あなたの言葉**が、全人類の愛情を豊かにし、全人類を支配するように！」（『教会規範』、p. 41）。

ビバリー・コールドスミスは、編集委員であり、オーストラリア、ブリスベーンに住むキリスト教科学実践士である。彼女は、Skype 公式サイトと e メールで、世界と緊密な繋がりを保ち、世界各地からくる祈りの要請に込えている。